

照葉樹林文化研究会ニュースレター No.20 . Jan. 15, 2023.

照葉樹林文化研究会

○照葉樹林文化研究会研究集会 2022 in Zoom は 11 月 16 日（水曜日）に開催しました。

場所 Zoom 上のオンライン会議

プログラム

14 : 00~14 : 30 世話人会

14 : 45~15 : 45 招待講演（名古屋大学 横山 智）「アジア・ヒマラヤの照葉樹林帯の納豆」

15 : 55~16 : 15 研究紹介・報告 1（王雯・大野朋子） 雲南省の土地利用変遷と少数民族の暮らしから考える森林景観の現状

16 : 15~16 : 35 研究紹介・報告 2（児島恭子）ナギ *Nageia nagi* をめぐって

16 : 35~16 : 55 研究紹介・報告 3（山口裕文・瀧上真帆）マナスル 52 探検・モノクロフィルムからの踏査の復元 その 2 : とくに中央ネパールにおける家畜利用について

16 : 55~17 : 15 総会

○2022 年照葉樹林文化研究会世話人会・総会 審議報告 2022 年 11 月 16 日開催

◎2022 年度事業報告および会計報告（代表および会計幹事より説明、会計監査報告）

1 : 研究集会および総会（11 月 16 日）

2 : 世話人会（3 月 18 日）および編集委員会（5 月 1 日）の開催

3 : サテライト集会（日本雑草学会学術部会と共催：2 月 26 日および 10 月 16 日）

4 : 中尾資料の寄贈と展示会への協力（西堀栄三郎記念探検の殿堂：企画展示会 5 月 1 日～9 月 5 日 8 月 26 日に展示会視察）

◎会計報告（表 3 枚）

照葉樹林文化研究会

2021 年度（2021 年 1 月 1 日 - 12 月 31 日）予算案

	項目	金額	備考
【収入】	2020 年度より繰越	45,810	借り入れ分（プロバイダ契約料 2019 年度分を含む）
	会費	20,000	8 件 10000 円 + 12 月 31 日までの納入見込み 10000 円
	収入合計	65,810	
【支出】	HP 維持のためのプロバイダ契約料	550	プロバイダ切り替えまでの月額
	郵便料	404	配達記録郵便料
	冊子体印刷製本費（未執行）	57,430	郵送料 17500 を含む
	支出合計	58,384	
【収支】	65810（収入） - 58384（支出）	7,426	2022 年度への繰越し

2021年度（2021年1月1日～2021年12月31日）決算報告書			
	項目	金額	備考
収入	2020年度より繰越	45,810	
	会費	14,000	
	合計	59,810	
支出	HP維持費	7,150	
	郵送料	404	
	未払い分調整	550	
	合計	8,104	
収支		51,706	

2022年度（2022年1月1日～2022年12月31日）決算報告書			
	項目	金額	備考
収入	2021年度より繰越	51,706	
	会費	0	
	合計	51,706	
支出	講演謝礼	10,000	
	合計	10,000	
収支		41,706	

会計監査結果 予算は適正に使用され、記録されています。監査委員 上田義弘・大澤良 印略

2023年度（2023年1月1日～2023年12月31日）予算（案）			
	項目	金額	備考
収入	2022年度より繰越	41,706	
	会費	2,500	
	合計	44,206	
支出	印刷製本費	57430	創刊号（郵送費込み）
	合計	57430	
収支		-13,224	

◎2023 年度事業計画

- 1 : 研究集会および総会 (10 月 28 日)、
- 2 : 世話人会 (10 月 28 日) および編集委員会 (10 月 28 日) の開催
- 3 : サテライト集会 (日本雑草学会学術部会と共催 : 12 月 16 日 (土))
- 4 : 中尾資料の整理と大阪公立大学資料史編纂室ニュースレターへの協力 (No2 3 月 31 日)
- 5 : 照葉樹林文化研究創刊号出版 (準備)
- 6 : 中尾撮影モノクロネガフィルムのカラー化と DB 化 (できるだけ早く公開)

◎2023 年度総会審議事項 (10 月 28 日)

○研究会規約改正

- 規約四 現行 (所在地) 大阪府立大学
改正 (修正) 大阪公立大学農学部

○研究会誌 (電子ジャーナル) の発行について (報告)

2020 年以降に発表された論文・解説の寄稿を要請し、編集出版する。

○2022 年度よりの運営体制の変更 なし

○2022 年度 会計監査委員の委嘱 継続依頼

■2022 年度研究集会発表要旨

招待講演 「アジア・ヒマラヤの照葉樹林帯の納豆」

横山 智 名古屋大学大学院環境学研究科

納豆を日本の伝統食だと思っている日本人は多い。納豆が日本の伝統食であることは間違いないが、日本独自の食ではない。1960 年代終わりに提唱された『照葉樹林文化論』では、味噌や納豆のような大豆発酵食品が東南アジアやヒマラヤの照葉樹林帯でつくられていることが示され、また 1970 年代に中尾佐助が提示した「納豆の大三角形」仮説では、中国雲南省で納豆が発祥したと論じられた。ところが、1980 年代以降、納豆の起源を探る学術的調査は全く実施されていない。本発表では、東南アジアやヒマラヤなどの照葉樹林帯に広がる「アジア納豆地帯」における納豆の生産と利用を紹介するとともに、日本の納豆とも比較しつつ、納豆の研究から何が分かるのかを議論したい。

研究紹介・報告 1 「雲南省の土地利用変遷と少数民族の暮らしから考える森林景観の現状」

王雯・大野朋子 神戸大学大学院人間発達環境学研究科

本報告は、1980 年以降の中国雲南省における土地利用の変遷を明らかにし、少数民族の暮らしとの関係を探ることを目的とした。雲南省は、1998 年に「天然林資源保護プロジェクト」を立ち上げ、森林保全へ向けて本格的に動きだしたが、これに伴い植栽されたのは成長が早く商業的に有益とされたユーカリ、さらに土壌流出防止効果が期待されるリュウゼツランやウチワサボテンであった。人々の文化的暮らしと共にあった森林景観は変貌し、同時に森林資源を利用する文化の喪失も危惧される。中国政府による森林保全の施策の動向を捉えると同時に、自然に対する独自の文化的背景を有する少数民族の暮らしが、どのように周辺環境に影響を与えたのかを考察したい。

研究紹介・報告 2.「マナスル 5 2 探検・モノクロフィルムからの踏査の復元 その 2 : とくに中央ネパールにおける家畜利用について」

山口裕文¹・ 淵上真帆² 1. 大阪府立大学名誉教授, 2. 目白大学

中尾佐助のマナスル踏査におけるモノクロ画像を彩色しコマごとに撮影日と場所を推定した。復元した 499 画像のうち 54 コマに動物が含まれていた。踏査行程は 8 月 25 日に羽田を出発し、12 月 28 日に羽田に戻っている。ネパールでは約 1 週間のカトマンズ滞在の後、カカニの丘を経てカレントールから北上し、アンナプルナ峰の北面でチベタン集落とチュルー峰を探検した後、東方のラルキア峠を越えサマに至り、マナスルへの登頂を試み、下山してカールタール湖を経て南下し、トリヅリバザールとカカニの丘を通り、カトマンズに戻っている。講演では住民生活、農業、自然、植生について関連著作の記述を参照しつつ紹介する。

研究紹介・報告 3.「ナギ *Nageia nagi* をめぐって」

児島恭子 札幌学院大学人文学部

ナギは日本での自生北限は山口県小郡とされ、天然記念物となっていて、一般的には九州、四国の太平洋側に分布するとされているが、半世紀以前に自生の北限は鹿児島県であるとする論考があった。奈良県春日大社の神域で照葉樹林に進出したナギについては、照葉樹林保全への危惧から生態学的な研究が行なわれているが、ナギをめぐる文化史的研究は熊野信仰以外ほとんどない。なぜ春日社の神木なのか、八幡神社との関係、また稲作とともに入ってきたという水田雑草コナギの名称がナギの葉に似ているからという説も理解に苦しむ。植物と人間の関係史への関心からナギにまつわる管見を示し、皆様からアドバイスがいただけることを期待する。